

1 学校教育目標

豊かな心と主体的に生きる力を養い、自立し進んで社会参加できる人間を育成する。

2 学校の特徴

本校は、肢体不自由養護学校として県内で最も早く設置された学校である。現在、小学部、中学部、高等部の肢体不自由の児童生徒と高等部の軽度知的障害のある生徒が共に学んでいる。通学して教育を受けることが困難な児童生徒や学齢超過者のために、家庭や施設に出向いての訪問教育を行っている。肢体不自由の障害の実態に合わせた校内環境の充実、給食の食事形態の工夫、医療的ケア等を実施しており、通学支援としてスクールバスの運行と寄宿舎の設置をしている。

児童生徒一人一人の障害の状況や教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を作成・活用し、きめ細かな指導・支援に努めるとともに、校外学習や各種行事を通して社会経験の拡充を図っている。また、就業・生活体験を行い、関係機関と連携しながら児童生徒一人一人の卒業後の豊かな生活を目指した職業教育や進路支援の充実に努めている。交流及び共同学習（居住校交流、学校間交流）を行い、児童生徒の人間関係づくりと地域生活支援を積極的に進めている。

3 学校の現状と課題

(1) 現 状

- ・児童生徒一人一人の実態に応じた進路支援の充実に向けて、高等部段階だけでなく、早期から卒業後の将来にむけたキャリア教育を推進する必要がある。そのために各学部の教員が福祉サービスの利用や進路に関する情報を理解・共有し、保護者のニーズに応じた情報提供ができるようにしていくことが求められている。
- ・創立50周年の記念の年に、児童生徒が主体的に様々な活動を企画・運営するとともに、全校児童生徒が協力して活動に参加することにより、達成感と充実感を味わうことができるようにしていく必要がある。
- ・「読み聞かせの会」や「お話宅配便」などの企画を行い本に親しむ活動を取り入れているが、図書室の利用が少ないという現状にある。図書室をはじめとする読書環境の整備・充実を行い、本に親しむ機会を増やす必要がある。

(2) 課 題

- ・児童生徒の生活に密着した福祉・進路情報の共有と理解
- ・児童生徒会・各専門委員会活動の活性化
- ・読書に親しむ機会の提供と読書環境の整備・充実

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	教育課程編成	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科の目標や児童生徒の実態を踏まえた指導内容を編成する。 ○合理的配慮を踏まえ、個別の指導計画を活用した指導の充実を図る。 <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次期学習指導要領改訂の主旨を押さえた教育課程の編成を検討する。特に、年間指導計画の再編成と学習評価の改善を図る。 ○個別の指導計画の活用では、合理的配慮の視点を踏まえ、児童生徒の実態に則した指導目標、指導の手立ての検討、適正な評価に基づく指導の充実、授業改善を行う。
		教科指導(小学部)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活能力を高めるとともに、友達や教師との関わりを広げ、いきいきと活動できる児童を育てる。 <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の障害や健康状態、教育的ニーズを的確に把握し、学習形態や指導・支援の在り方を工夫し、学習内容の充実に努める。 ○主体的に学ぶ意欲を育て、生活力を高めるために、学習に対する興味・関心や基礎・基本的な内容を重視し、個別の指導計画を生かした授業づくりや個に応じた自立活動の充実を図る。 ○様々な体験活動の充実を図り、周囲の人やものに積極的に関わっていく力や豊かな感情を育てる。
	教科指導(中学部)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の生活能力を高めるとともに、人との関わりや生活経験の拡大を図り、主体的に学習や活動に取り組む生徒を育てる。 <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の障害の状況や教育的ニーズを的確に把握して学習内容を精選するとともに、体力や健康状態に応じた学習方法や学習環境を工夫する。 ○生徒同士で話し合ったり認め合ったりする対話的な活動をとおして学びが深まるよう、効果的な学習形態を工夫する。 ○必要な情報を学部全体で共有し、各授業において個に応じた系統的な指導の充実に努める。 	
	教科指導(高等部)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立と社会参加に向けて生活能力を高めるとともに、自己の能力や適性について考え、主体的に物事に取り組む態度を育てる。 <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の障害や特性、教育的ニーズを把握するとともに、自立活動や各教科において、健康で充実した生活を送ることができるよう、卒業後を見据えた指導の充実を図る。 ○自己理解を深め、卒業後の生活につなぐことができるように、様々な体験活動を積極的に取り入れ、自己評価の機会を設ける。 ○集団活動や人との関わりを通して自らの考えを広げたり、他者の意見を受け入れたりしながら社会性の伸長を図り、自ら外部に働き掛けようとする実践的な態度を育てる。 	
	教科指導(訪問教育)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の能力や個性を大切にして、それぞれの年齢やニーズに合わせた教育や支援を行い、健康の保持・増進に努めるとともに人との関わりを広げ、自ら取り組もうとする意欲を育てる。 <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の所属する学部との連携を深め、生活年齢に配慮した学習内容の精選と教材の工夫に努め、訪問教育の充実を図る。 ○家族や施設職員と信頼関係を築き、訪問教育についての理解と協力が得られるように努める。 	
	I C T 機器活用	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の実態や障害の特性を踏まえた I C T 機器活用等を活用した指導を推進する。 <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ I C T 機器等の活用に関する情報を共有し、各教員の授業に生かせるようにする。 	
	2	学校生活	保健管理
生徒指導			<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の問題に的確に対応することができる。 ○災害時における組織的対応力を高める。

		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ネットトラブルやいじめの問題等の生徒指導上の諸問題の実情を知り、全教職員で共通理解を図り対応や指導を行う。 ○危機管理マニュアルなどで、教職員全体で共通理解を図り、より実践的に避難訓練等を行う。
3	進路支援 重点1	目標	○個に応じた進路指導ができるように、 <u>必要な情報を収集・共有し、計画的に支援する。</u>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>全教職員で進路指導を進めるため、児童生徒に必要な福祉・進路情報情報を共有するとともに、理解を深める。</u> ○児童生徒や保護者の進路意識を高め、個に応じた進路選択ができるように、情報を提供する。必要に応じて職場開拓を行う。 ○保護者や関係機関と連携し、卒業後の社会生活を見据え、ネットワーク作りに努める。
4	特別活動 重点2	目標	○ <u>児童生徒会活動の活性化を図る。</u>
		計画	○ <u>学校行事や児童生徒会執行部が企画する行事、各専門委員会の活動を通じて、全校児童生徒が協力して活動できるようにする。</u>
	学校図書室 重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>読書環境を整備する。</u> ○<u>図書に親しむ機会を増やし、読書活動を推進する。</u>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>各学部の児童生徒が利用しやすいように図書室の環境を整備したり、ロビーやホールに別置図書を配置したりして、いつでも読書ができる環境を整備する。</u> ○<u>読み聞かせや読書タイムの設定を提唱し、図書に親しむ機会を設ける。</u>
5	寄宿舍部 その他	目標	○自立と社会参加に向けて、個のニーズに合わせた生活支援を行うとともに、人との関わりを助け、生活力の向上を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の実態に応じた生活支援方法について、学部や家庭と共通理解を図り、きめ細かな支援を行う。 ○集団活動の中で、主体的、対話的な活動を取り入れ、生活体験の拡大を図るとともに、仲間意識を育てる。
	研修	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の自立と社会参加を目指し、生きる力を育むための授業づくりを行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの指導・支援の見直し、改善を図る。 ○児童生徒の実態に応じたICT機器やデジタル教材、スイッチ教材を活用した学習の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの視点等について研修する。 ○主体的・対話的で深い学びの視点から授業実践、授業改善を行う。 ○児童生徒の障害特性やニーズに応じたICT機器やデジタル教材、スイッチ教材等の学習場面における使用について研修し、学習活動への活用を図る。
	教育支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○障害のある幼児児童生徒やその保護者及び関係者への教育相談・教育支援を推進する。 ○地域の学校や関係機関と連携し、ネットワークづくりを進める。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○就学相談や教育支援の充実を図るため、就学・進学の仕事についての理解促進と各関係機関等からの情報収集に努める。 ○障害に関する様々な相談に対応できるよう、研修や事例検討等を通して専門性の向上に努める。 ○地域の特別な支援を要する子どもに関するニーズを把握し、関係機関と連携し、適切な指導支援や体制づくり等、特別支援教育に関する助言や情報提供を行う。
情報管理	目標	○情報セキュリティや情報モラルに関する意識を高め、ICT機器を安全に活用できるようにする。	
	計画	○情報セキュリティや情報モラルに関する研修会を実施したり、安全に使用するための情報を提供したりする。	
PTA活動	目標	○PTA行事の精選と内容の充実を図る。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA各委員会の担当教員と保護者との連絡・調整を密にし、活動内容の見直しを行う。 ○児童生徒の教育環境が整うよう、保護者と連携して情報収集や研修会の実施に取り組む。 	

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

平成29年度 富山総合支援学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	進路支援		
重点課題	児童生徒の生活に密着した福祉・進路情報の共有と理解		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の推進について、高等部段階での指導が中心に行われており、早期から将来を見据えたキャリア教育を推進していく必要がある。 ・児童生徒がより豊かな生活を送るために、在学中からの福祉サービスの利用も踏まえて支援していくことが求められるが、教員自身、福祉サービスや進路に関する知識が不足している。 		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>福祉・進路に関する研修会 5回以上（全職員対象2回）</td> <td>全教職員の研修会への1回以上の参加 80%以上</td> </tr> </table>	福祉・進路に関する研修会 5回以上（全職員対象2回）	全教職員の研修会への1回以上の参加 80%以上
福祉・進路に関する研修会 5回以上（全職員対象2回）	全教職員の研修会への1回以上の参加 80%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒を取り巻く福祉の現状を知るための研修会を開催し、全学部の教員の参加を呼び掛ける。また、情報を共有・理解するための機会を学部で設定する。 ・自分が担当する児童生徒の福祉サービスの現状や様子を知るとともに、教員自らがそこでボランティア体験などを体験することで、学校では知ることのできない児童生徒の生活の様子を知る。 ・学校卒業後の移行に向けて、小・中学部の段階から目標をもって取り組むために、卒業生が利用している施設や事業所を見学・体験したり、アフターケアに同行したりして、その実態や様子を知り、見識を深める。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成29年度 富山総合支援学校アクションプラン - 2 -			
重点項目	特別活動、生徒会活動		
重点課題	児童生徒会・各専門委員会活動の活性化		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会執行部に中学部生徒が加わり、高等部生徒と一緒に企画・運営するようになって2年目となり、徐々にではあるが中学部高等部が協力して、児童生徒会活動を行えるようになってきた。しかし、全校児童生徒が主体的に取り組む活動にまで発展していない。 ・委員会活動は、中学部高等部生徒が、保健給食委員会、図書委員会、ボランティア委員会に分かれて、年9回活動している。各委員会で、全校児童生徒を対象とした活動も行っているが、ねらいや活動内容をしっかりと認識して活動している児童生徒が少ない。 		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>児童生徒会執行部が中心となって企画する行事や集会 5回以上</td> <td>児童生徒会執行部や各専門委員会が行う チャレンジ週間への参加 80%以上</td> </tr> </table>	児童生徒会執行部が中心となって企画する行事や集会 5回以上	児童生徒会執行部や各専門委員会が行う チャレンジ週間への参加 80%以上
児童生徒会執行部が中心となって企画する行事や集会 5回以上	児童生徒会執行部や各専門委員会が行う チャレンジ週間への参加 80%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会執行部が、毎年行っている企画行事のほかに、創立50周年記念を盛り上げるための集会などを企画する。 ・児童生徒会執行部や専門委員会で2か月目標を設定する。その期間に、チャレンジ週間を設け、チャレンジ表を用いて、児童生徒全員が取り組めるようにする。 ・全校児童生徒が目的的に活動できるように、放送で呼び掛けたり、掲示物を作成したりするなどの啓発活動を行う。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	特別活動、学校図書室	
重点課題	図書室の利用促進と読書に親しむ機会の提供	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室を利用する児童生徒が限られており、図書室の環境を整えるとともに図書室の利用を喚起する必要がある。 ・児童生徒の障害が重度・重複化、多様化し、読書の習慣が身に付きにくい。個々の児童生徒の障害の状況や実態に応じて、本に親しむ機会を設ける必要がある。 	
達成目標	図書室の一人あたりの年間利用回数 5回以上	読み聞かせの会の実施 6回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室に図書室利用カードを置き、年間の利用状況を把握する。 ・図書室を各学部の児童生徒が利用しやすいように配架を工夫するとともにICT環境を整える。 ・各クラスで読書タイムを設定し、図書室の利用促進を図るとともに本に親しむ機会を設ける。 ・外部講師を招き、読み聞かせの会を行う。 ・本に親しむ機会を増やすために、4棟ロビーや1・2階のセンターホールに別置図書を学部文庫として配置する。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)